

1 水管理 (ジャンボタニシ対策)

中干しまでの水管理は、分けつ促進とジャンボタニシの食害防止のため、浅水での間断かん水を基本とします。

防除を行う場合は、スクミノンを10aあたり2～4kg、タニシの多いところを狙って散布します。ジャンボタニシは、田植直後～20日後頃に最も激しく食害します。その後は、発生する雑草を食べてくれるという利点もあるので、上手に付き合いましょう。

また、麦わらすき込み田では、ガス害が発生する場合があります。苗が活着する様子がなく、葉が黄色くなっている、ほ場に入ると泡がブクブクたち、ドブのようなにおいがする場合は、ガス害の可能性が高いです。その場合、落水し田面を軽く干して、ガス抜きを行います。

2 除草剤

○雨により初期除草剤を散布できなかつたり、散布後に田んぼの水があふれたりして、雑草が残っている場合は、中後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量 10aあたり	備考
クリンチャー 1キロ粒剤	田植後 25～35日	1.5kg	○ヒエ5.0葉期までに水をためて散布 ○キシユウスズメノヒエに適用あり
グラスジンM ナトリウム粒剤	田植後 25～40日	3kg	○広葉雑草が対象、ヒエに効果なし ○落水後散布 ○散布後2日以内の降雨は効果低下
ワイドアタックSC (液剤)	田植後 20～65日	100ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水して雑草にかかるよう散布

3 中干し

- (1) 1株あたりの茎数が20本になり次第、中干しに入ります。目安は田植の1ヶ月後となります。中干しの程度は、足跡が軽く付くまで行います。白く乾かないようにしましょう。
- (2) 中干し後は、間断かん水を行います。
- (3) その後穂ばらみ～穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので水を保ちます。
- (4) 水が豊富にある場合は、高温障害回避のため、出穂後2週間程度かけ流しを行い、ほ場内の温度を下げます。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!